



目次

方針1 多世代が集う交流拠点の整備

H U L a b o o ①

- ① 駅前街区の再編
- ② 交流拠点施設及び駐車場の整備
- ③ 駅前広場の再整備
- ④ 市営住宅天王崎団地跡地の暫定利用 … P 9～10
- ⑤ 公共施設の集約・複合化後の跡地活用 … P 11

P 1～8

方針2 温泉とフラのまちの玄関口としての景観整備

H U L a b o o ②

- ① 湯本駅から御幸山公園までの道路景観整備
- ② 御幸山公園や駅前緑地の改修

P 12～13

方針3 商店街のにぎわい再生

- ① 空き店舗を活用した新規出店サポート … P 14～15
- ② 路上や空き地等を利用したのにぎわいづくり … P 16～17

方針4 温泉街の滞留拠点の形成

- ① 温泉神社周辺への滞留拠点の形成 … P 18～19

H U L a b o o ③

方針5 歩きたくなる沿道景観・道路空間の整備

- ① 駅から温泉街までの道路景観の整備
- ③ 安全な歩行者空間づくり
- ② 情緒ある夜間景観づくり … P 22～23
- ④ まち歩きの促進 … P 24～25

P 20～21



方針 1 - ①～③

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

(①駅前街区の再編 ②拠点施設・駐車場の整備 ③駅前広場の再整備)

● 目的

- 湯本駅前は、地区内外の人々が行き交う玄関口であることから、「温泉」と「フラ」という、湯本らしさを取り入れながら、「拠点施設」や「周辺空間」の一体的な整備により、賑わいや交流が育まれる場所の形成を目指す。
 ※ 公共施設の集約・複合化も併せて検討

● 場所（候補地）

- 湯本駅前エリア

● 効果

- 利便性・快適性の向上による来訪者の増加
- まちなかにおける滞在時間の増加
- 利用者の消費単価の増加
- 新たな雇用機会の創出
- 市民満足度の向上
- 公共施設の総量適正化

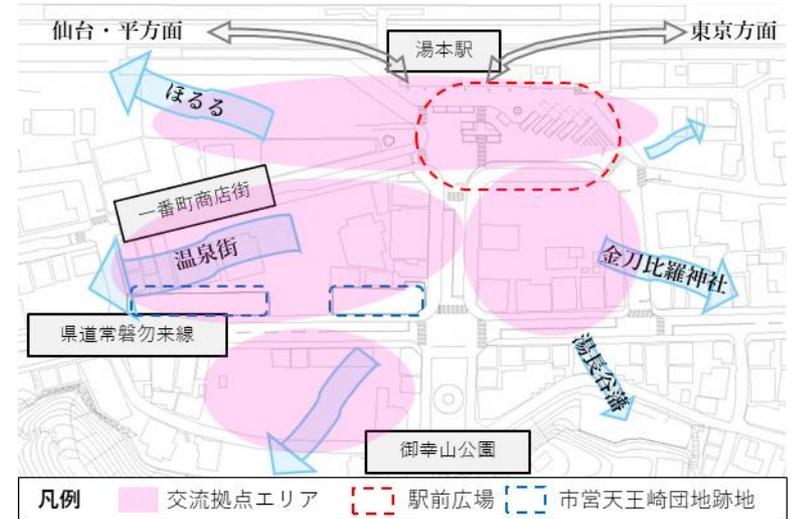


図 地区内外の人と情報の交流拠点の形成イメージ



写真 湯本駅前



グラフ 湯本駅前の印象（令和2年度住民アンケート結果）



方針 1 - ①～③

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

(① 駅前街区の再編 ② 拠点施設・駐車場の整備 ③ 駅前広場の再整備)

・ 取組みのイメージ

- 地域および観光拠点の玄関口に相応しい、「温泉」と「フラ」を活かしながら、必要な機能の配置および空間構成により、交流拠点を形成
- 拠点エリア整備に伴い、既存の土地利用を組み換えながら基盤整備を実施
- 拠点整備に合わせ、適正規模の駐車場を整備
- 駅前利用者の安全性や利便性に配慮した駅前広場の整備
- 玄関口として、地域や観光情報を提供、取得できるツール（デジタルサイネージ、フリーWi-Fi等）を整備

・ 想定される主体

- 民：駅前街区でのソフト施策の展開
 民間収益施設の運営
 駅前街区の再編に伴う再建
 - 市：駅前街区の基盤整備
 駅前街区の民間施設再建に関する支援
- ※ 交流拠点の整備・運営は、官民連携事業を想定



写真 湯本駅前



方針 1 - ①～③

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

(①駅前街区の再編 ②拠点施設・駐車場の整備 ③駅前広場の再整備)

・ 集約・複合化検討対象施設 (機能) 検討中のたたき (未定稿)

I. 交流拠点を構成する機能の一部として再編 (民間活力の活用) を検討

常磐支所

敷地面積：1,750.59 m²
 延床面積：2,585.15 m²
 建築年度：1958年 (築63年)
 利用者数：約2.7万人 ※市民課申請のみ

関船体育館

敷地面積：6,707.00 m²
 延床面積：1,851.11 m²
 建築年度：1976年 (築45年)
 利用者数：約3.5万人

常磐公民館・図書館

敷地面積：11,932.00 m²
 延床面積：2,000.63 m²
 建築年度：1966年 (築55年)
 利用者数：約4.1万人

常磐市民会館

敷地面積：6,756.89 m²
 延床面積：3,081.91 m²
 建築年度：1966年 (築55年)
 利用者数：約3.3万人

III. 公共施設の拠点として再編を検討

湯本駅前駐車場 (52台)

カーシェア JR湯本駅ステーション (2台)

湯本駅前サイクルステーション (2台)

湯本駅前自転車等駐車場

敷地面積：272.00 m²
 延床面積：320.50 m²
 建築年度：1992年 (築29年)
 収用台数：354台

II. 交流拠点施設を構成する機能の一部 (民間活力による導入) として検討

みゆきの湯 (公衆浴場)

敷地面積：446.81 m²
 延床面積：229.35 m²
 建築年度：2007年 (築14年)
 利用者数：約10万人

その他民間収益施設

・小売・飲食店舗
 ・観光案内
 ・キッズ (託児所)
 ・銀行 など

IV. 廃止として検討

関船弓道場

敷地面積：(関船体育館敷地内)
 延床面積：171.11 m²
 建築年度：1978年 (築43年)
 利用者数：約1万人

- 市中期財政計画 (R3.2) に示すとおり、人口減少や少子高齢化の進行により財政的な制約がますます高まることが想定
- 一度ハコを建設すると、以後何十年にもわたって維持管理費が発生
- 将来に負担を残さないためにも、既存の状態 (規模・機能等) にとらわれず、地区全体や市全体の視点をもって検討
- どのような活動をどのような頻度で実施するのかなどの意見交換を地域と進めながら、ハコへの導入機能の検討を深めるとともに、ハコの中というよりは (だけでなく)、外とのつながりを重視し、エリアとして一体的に、市民や観光客の方々が見心地がよいと感じる空間を形成すること (ランドスケープ) を検討していく。



方針 1 - ①～③

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)



(① 駅前街区の再編 ② 拠点施設・駐車場の整備 ③ 駅前広場の再整備)

- (補足) 公共施設の集約・複合化にあたって
 - **交流拠点における公共機能は、既存施設を集約・複合化するものではない。**
まちの将来ビジョンを踏まえながら、交流拠点をどのように使っていくことが望ましいのかを深め、必要な機能を配置する。
(駅前の望ましい空間や使い方を考えた結果として、公共機能があった方が良いという考え)
 - **将来の変化を踏まえた施設規模を設定する。**
施設利用者の変化や働き方の変化などを見据えながら、既存の施設規模にとらわれない検討を進める。



方針 1 - ①～③

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

(① 駅前街区の再編 ② 拠点施設・駐車場の整備 ③ 駅前広場の再整備)

● 交流拠点エリアの施設整備コンセプト (案)

【メインテーマ】

「温泉」と「フラ」を活かしたにぎわい・交流の源泉づくり

メインテーマは、常磐地区の市街地再生に向けた目標『駅周辺の再編と交流空間の創出による市街地の再生』の副題である“「温泉」と「フラ」を活かしたにぎわい・交流の源泉づくり”とします。

湯本駅前には、鉄道やバスの利用客をはじめ、観光客等、地区内外の人々が行き交う玄関口です。

そこでは、住むヒト・訪れたヒトが、お店で買い物や食事をしていたり、イベントを楽しんでいたり、図書館で借りた本を読んでいたりと、フラを踊っていたり、何もせずただのんびりと空をながめていたり・・・。

「温泉」と「フラ」という、いわき湯本ならではの新旧の資源・文化を交流拠点の機能や空間構成に取り入れながら、**多様な人々が集い・憩い、そして交流・賑わいが育まれる「源泉＝人と情報のたまり場」となるような拠点の形成**を目指します。

【コンセプト (基本的な機能)】

① 人のたまり場

- ・ だれもが居心地がよく、ふらりと訪れたい場
- ・ 市民と観光客の交流が生まれる場
- ・ 市民の様々な活動を支え、また意欲をかき立てる場
- ・ 市民が気負いすることなく、気軽に相談できる場
- ・ 安全・安心な暮らしを支える場

② 情報のたまり場

- ・ いわき湯本を魅せる場
- ・ 市民が学び、観光客が地域の歴史・文化に触れられる場
- ・ 新しい情報に出会えると期待がもてる場
- ・ 本市のランドマークとなり、情報を発信し続ける場



方針 1 - ①～③

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)



(① 駅前街区の再編 ② 拠点施設・駐車場の整備 ③ 駅前広場の再整備)

・ 交流拠点整備のコンセプト (案)

【ランドスケープコンセプト】

まち庭 MACHI NIWA

駅前街区の再編や交流拠点・駐車場の整備、駅前広場の再整備などにおいては、地上部や施設に、共用の広場やアトリウム空間の「たまり場」を設け一体感を醸成し、全体で居心地のよい、「まちなかの庭」と感じるような空間の形成を目指します。





方針 1 - ①～③

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱いには注意してください(無断提供・転載禁止)

(① 駅前街区の再編 ② 拠点施設・駐車場の整備 ③ 駅前広場の再整備)

● 導入機能イメージ (案)

- ・ だれもが居心地がよく、ふらりと訪れたい場
- ・ 市民と観光客の交流が生まれる場
- ・ 市民の様々な活動を支え、また意欲をかき立てる場
- ・ 市民が気負いすることなく、気軽に相談できる場
- ・ 安全・安心な暮らしを支える場

1 人のたまり場

《コンシェルジュ》

- ◆ 地域との協働まちづくり拠点
- ◆ 地域包括ケアの拠点
- ◆ 納税相談(証明書)
- ◆ デジタル申請サポート
- ◆ 住民票や証明書等の申請窓口
- ◆ 地域の防災活動拠点
- ◆ 地域都市基盤の見守り

《温泉とフラ》
施設の機能や
空間構成に導入

《カルチャー+アクティビティ》

- ◆ 地域活動のホーム
- ◆ 学びと活動を通じた学習拠点
- ◆ 地域活動の情報ネットワーク拠点
- ◆ 日常スポーツ・レクリエーション活動拠点
- ◆ 市民同士の交流促進
- ◆ 災害時の避難場所・避難所

外でもフラ!

《たまり機能》
共用の
空間・土地利用

《温泉とフラ》
施設の機能や
空間構成に導入

《たまり機能》
共用の
空間・土地利用

《モビリティ》

- ◆ 公共交通(鉄道、バス、タクシー)
- ◆ 駐車場
- ◆ カーシェア
- ◆ レンタサイクル
- ◆ キックボード など

ちょっとついでに!

汗流そうかな!

いわき湯本にきた!

《温泉とフラ》
施設の機能や
空間構成に導入

《温泉とフラ》
施設の機能や
空間構成に導入

外でも読書!

《たまり機能》
共用の
空間・土地利用

《infoライブラリ》

- ◆ 総合図書の貸出窓口(本の駅)
- ◆ 調べものナビゲーション
- ◆ 地域の文化・歴史の情報発信拠点
- ◆ 市民の課題解決につながる知の拠点
- ◆ だれでもふらっと自由空間
- ◆ 多世代が集う学びの場

《温泉とフラ》
施設の機能や
空間構成に導入

文化を知って・触れる!

《たまり機能》
共用の
空間・土地利用

ごろりごろり!

《スパ+ヘルス》

- ◆ いわき湯本温泉の情報発信拠点
- ◆ 利用者同士(住民・旅行者)のふれあいの場
- ◆ 文化とのふれあいの場
- ◆ 健康・美容の進増
- ◆ 外湯文化の継承

《たまり機能》
共用の
空間・土地利用

《ライフ》

《ライフ》

- ◆ 「食」
- ◆ 観光案内
- ◆ キッズ(託児所)
- ◆ 金融 など

電車くるまでの
時間つぶしに!

- ◆ 「食」
- ◆ 観光案内
- ◆ キッズ(託児所)
- ◆ 金融 など

※ 地域の方々と、駅前においてどのような活動をしたいか(事業アイデア)について話し合い、必要となる機能の検討を深めます。

2 情報のたまり場

- ・ いわき湯本を魅せる場
- ・ 市民が学び、観光客が地域の歴史・文化に触れられる場
- ・ 新しい情報に出会えると期待がもてる場
- ・ 本市のランドマークとなり、情報を発信し続ける場

方針 1-④ 市営住宅跡地の暫定利用

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

● 目的

- 市街地再生整備の事業が本格的に実施されるまでの期間において、駅前の公共用地を活用しながら、人が集まる空間を整備し、イベント等の開催を通して、若い世代など新たな来訪機会の創出を図り、将来的な賑わいや交流に繋げる。

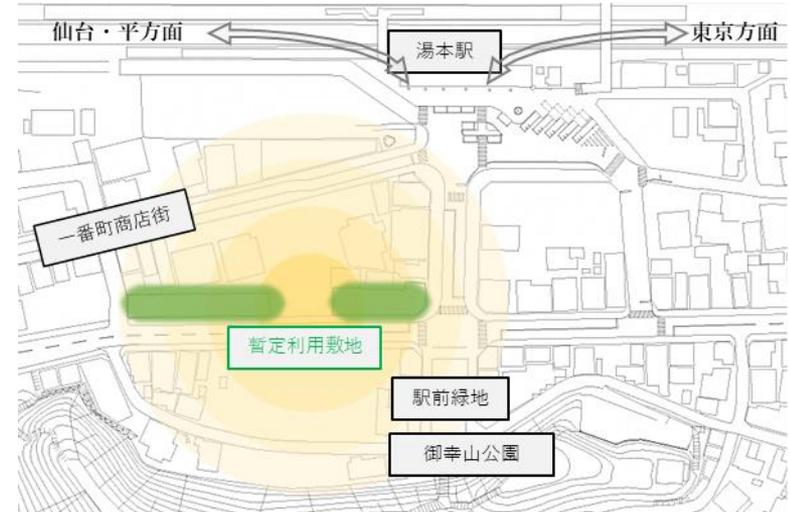


図 人が集まる賑わいと交流の暫定利用イメージ

● 場所（候補地）

- 市営住宅天王崎団地敷地

● 効果

- 地区内外からの新たな来訪機会の創出
- まちなかの滞在時間増加
- 跡地周辺への賑わいや交流の波及
- イベント開催の創出



グラフ 湯本駅前の印象（令和2年度住民アンケート結果）



写真 市営住宅天王崎団地



方針 1 - ④ 市営住宅跡地の暫定利用

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

• 取組みのイメージ

- 駅前への来訪機会が少ない、子供や子育て世代など若い世代のニーズに合わせた空間整備
- 新たな来訪機会、出店機会を図るため、定期的なマルシェ等の開催



• 想定される主体

- 民：跡地の整備
イベント・出店等の企画・運営
- 市：跡地利用に係るサポート

• 検討のポイント

- 将来の交流拠点の形成も見据え、具体的にどんな事業に取り組んでいくか



写真 暫定利用イメージ

方針 1 - ⑤ 公共施設の集約・複合化後の跡地活用

目的

- 湯本駅前の交流拠点に公共の機能が集約された場合、既存施設の敷地が空き地となることから、医療、福祉、子育てなど、まちに必要な機能へと土地利用の転換を図り、まちの活力維持・向上を目指す。

場所（候補地）

- 常磐市民会館、関船体育館等敷地
※常磐支所敷地については、方針 4 - ①参照

効果

- まちなかの空洞化抑制
- 新たな雇用機会の創出
- 生活利便性の維持・向上

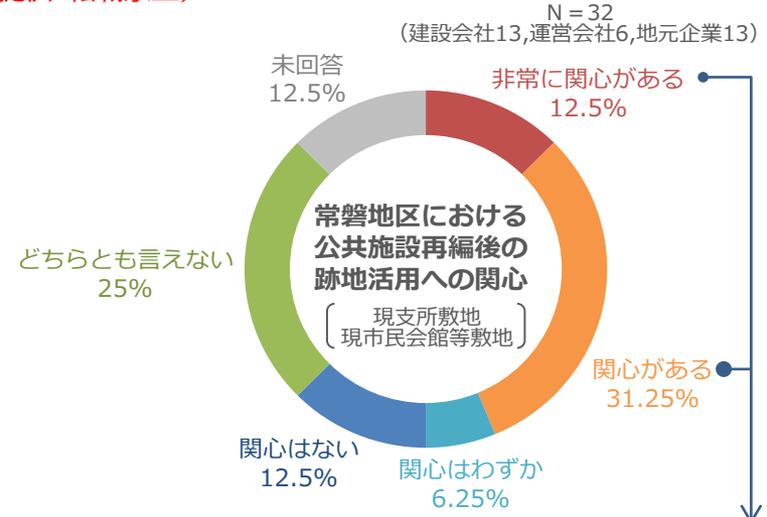
取組みのイメージ

- 市が公共施設の再編に併せて、跡地活用について民間事業者を公募

想定される主体

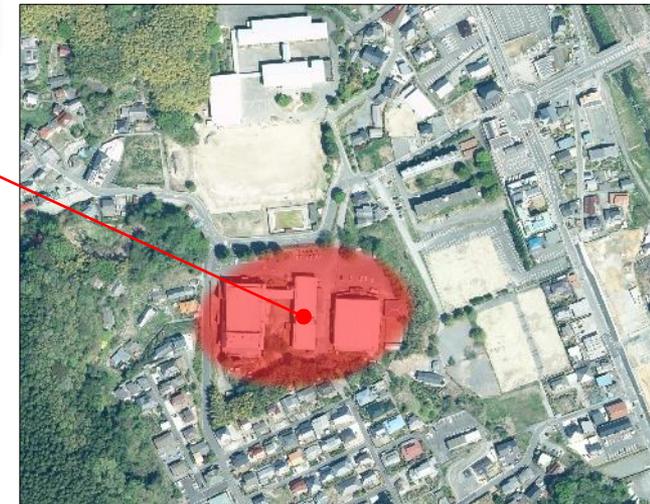
- 民：医療、福祉、子育てなどの都市機能誘導施設の整備
- 市：都市機能誘導施設の誘導

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)



(現市民会館敷地等における事業アイデア)
病院、研究施設、サービス付き高齢者住宅、スーパー等

図 企業アンケート調査結果 (R3.1~2実施)





方針 2-①～②

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱いには注意してください(無断提供・転載禁止)



(①湯本駅から御幸山公園までの道路景観整備 ②御幸山公園や駅前緑地の改修)

● 目的

- 市民や観光客の玄関口として、駅前に降りて初めて目に映る景色に「温泉」と「フラ」の湯本らしさを取り入れながら、来訪者の心をつかむような“いわき湯本”ならではの景観形成を目指す。

● 場所（候補地）

- 湯本駅から御幸山公園までのエリア
 ※ 観音山公園についても併せて検討

● 効果

- まちなかにおける滞在時間の増加
- 市民・観光客の満足度の向上
- 観光地としての魅力向上



グラフ 湯本駅前の印象（令和2年度住民アンケート結果）

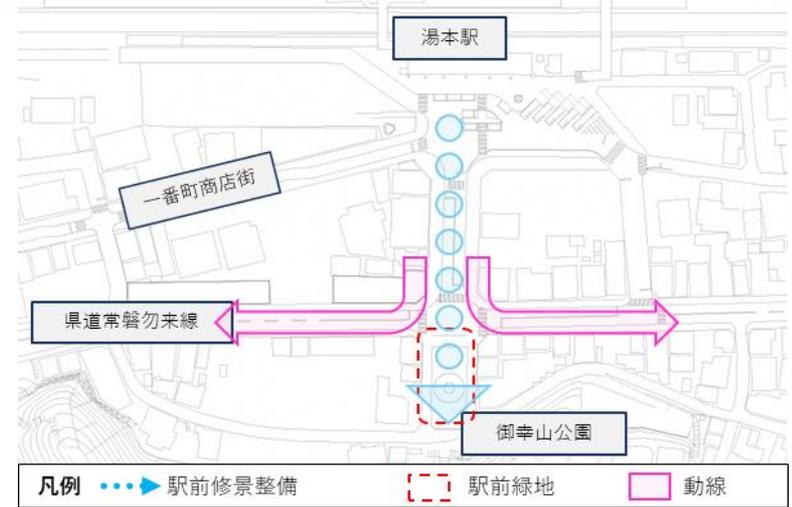


図 駅前景観整備による賑わい創出イメージ



写真 御幸山公園から湯本駅前の眺望



方針 2-①～②

①湯本駅から御幸山公園までの道路景観整備 ②御幸山公園や駅前緑地の改修



● 取組みのイメージ

- 道路景観は、交流拠点施設のデザインと合わせながら、一体的な空間を形成
- 駅前緑地は、駅前とのデザインを合わせながら、湯本らしさを体現したアイストップとなるような空間を整備
- 御幸山公園※は、まちなか景観の魅力的な背景となるよう修景整備

※ 御幸山公園は「風致公園」の位置付け
 風致公園は、主として自然の景色などの味わいを享受することを目的とする公園。
 市内では、勿来の関公園や水石山公園、三崎公園、舞小浜公園が指定されている。



写真 景観イメージ

● 想定される主体

- 民：駅前緑地の管理・運営
御幸山公園の維持管理（植栽管理等）
- 市：道路、緑地、公園の修景整備
- 県：道路整備

● 検討のポイント

- “湯本らしさ”が体現できる玄関口のデザインとは、どのようなものか



図 じょうばん街工房21 作成パース（駅前緑地）



方針3-① 空き店舗を活用した新規出店サポート

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

目的

- 空き地や空き店舗が増加し、市街地の空洞化が進行する中、それらを有効活用し、魅力ある個店づくりを図りながら、住民や観光客が気軽に集まるコミュニケーションの場所となる商店街の形成し、新たな地域のにぎわいや活力を生み出すことを目指す。

場所（候補地）

- 駅前と温泉街を繋ぐ「一番町通り」や「駅前通り」周辺に立地する空き店舗を想定

効果

- 新規出店者の創出による持続的な商店街の形成
- 来訪者（住民や観光客）の増加
- 商店街の売り上げ向上
- 地域活力の向上
- まちなかにおける回遊性の向上
- 空き店舗の活用による不動産価値の維持・向上（エリア価値）



グラフ 商店街の印象（令和2年度住民アンケート結果）

（駅前と温泉街を繋ぐ商店街のにぎわい形成イメージ）

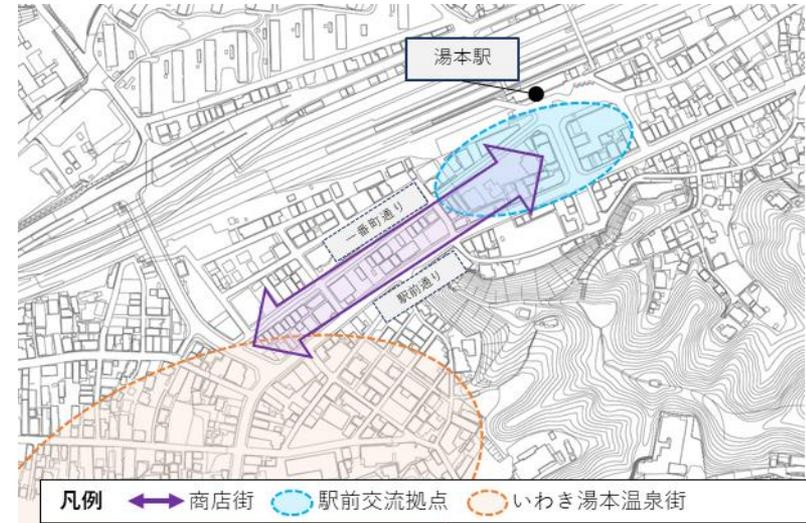


図 空き地や空き店舗活用の候補エリア



写真 一番町通り

方針3-① 空き店舗を活用した新規出店サポート

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

取組みのイメージ

- 空き店舗を活用したチャレンジショップへの支援体制(まちづくり会社など)を組織
- 当組織が新規店のほか、既存店についても魅力ある店舗づくりの支援や情報発信を行うことにより、魅力ある商店街を形成



想定される主体

- 民：空き店舗の活用
入居者への支援組織の設立・運営
- 市：空き店舗活用に係るサポート

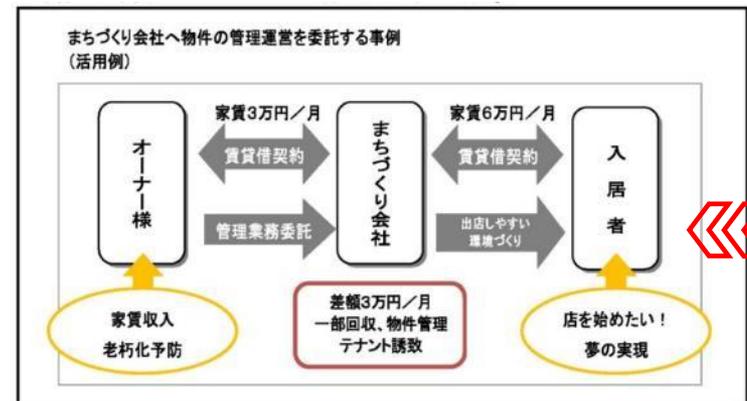


↓
空き店舗から
ギャラリーへ



検討のポイント

- 支援組織(まちづくり会社など)をどう組成するか。
- 具体的にどの場所で行えそうか。
- 新規出店の支援として、何が必要なのか。(どうすれば新規に出店してもらえるのか)



行政によるサポート

方針3-②路上や空き地等を利用したにぎわいづくり

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

目的

- 空き地や空き店舗が増加し、市街地の空洞化が進行する中、それらを有効活用し、魅力ある個店づくりを図りながら、住民や観光客が気軽に集まるコミュニケーションの場所となる商店街の形成し、新たな地域のにぎわいや活力を生み出すことを目指す。

場所（候補地）

- 駅前と温泉街を繋ぐ「一番町通り」や「駅前通り」周辺に立地する空き地を想定

効果

- 来訪者（住民や観光客）の増加
- まちなかにおける回遊性の向上
- 商店街の売り上げ向上
- 地域活力の向上
- 空き地の活用による不動産価値の維持・向上
(エリア価値)



グラフ 商店街の印象 (令和2年度住民アンケート結果)

(駅前と温泉街を繋ぐ商店街のにぎわい形成イメージ)

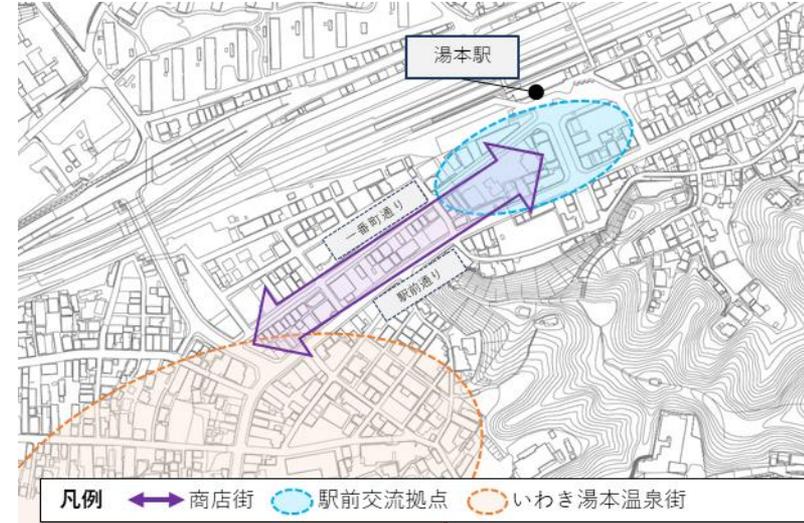


図 空き地や空き店舗活用の候補エリア



写真 まちなかに点在する空き地

方針3-②路上や空き地等を利用したにぎわいづくり

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

取組みのイメージ

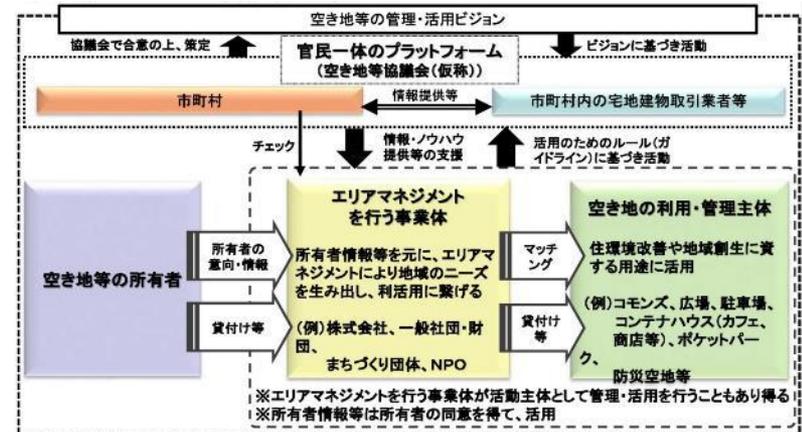
- 空き店舗とも連携しながら、まちなかの低未利用地(民地)を対象として、ポケットパーク等を整備し、まちなかの憩いの空間やイベントスペースとして活用
- 定期的なマルシェやイベントを開催し、まちなかの集客機会を創出

想定される主体

- 民：空き地の整備
イベントの企画・運営
- 市：整備・運営等に係るサポート

検討のポイント

- 具体的にどの場所で行えそうか。
- エリアマネジメント組織をどう組成するか。



方針4-① 温泉神社周辺の滞留拠点の形成

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

● 目的

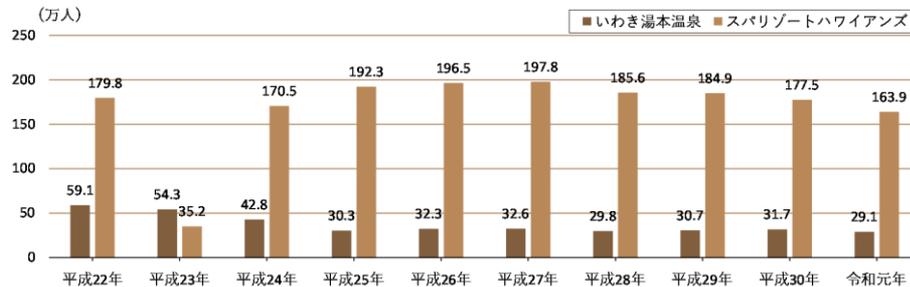
- 地域最大の資源である「温泉」を活かし、温泉街で憩い、交流できる滞留拠点を創出することで、温泉宿と「温泉神社」や「さはこの湯」、童謡館」などの既存の観光資源との間に人の流れをつくり、にぎわいや活力を生み出すことを目指す。

● 場所 (候補地)

- 温泉神社に隣接する現常磐支所敷地
 ※ 公共施設再編後の跡地利活用を想定

● 効果

- 観光地としての魅力向上
- 観光交流人口の増加
- 温泉街の滞留時間の増加
- 回遊性の向上



(滞留拠点形成による温泉街の回遊性向上イメージ)

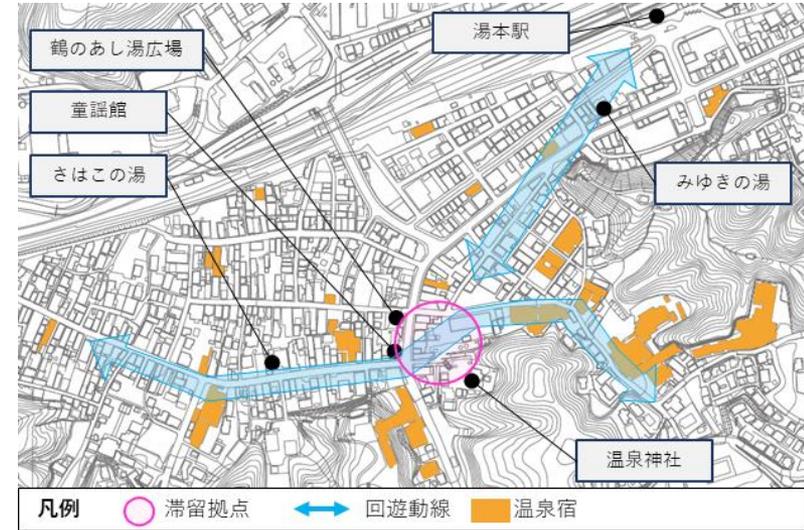


図 滞留拠点の候補地



写真 温泉神社と現常磐支所敷地

方針4-① 温泉神社周辺の滞留拠点の形成

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

• 取組みのイメージ

- 温泉を活かしたモニュメントや足湯を整備し、合わせて周囲に店舗等を配置
- 温泉神社と一体的に、時の流れや歴史を感じ、居心地がよく湯本温泉ならではの拠点を形成(いわき湯本温泉郷のシンボルとなるもの)



• 想定される主体

- 民：店舗等の整備、滞留拠点の運営
- 市：モニュメントや足湯の整備
- ※ 官民連携事業を想定



• 検討のポイント

- 「いわき湯本温泉郷」を体現する機能やデザインは、どのようなものか。



写真 滞留拠点の整備イメージ

方針5-①、③ (①道路景観の整備 ③安全な歩行者空間づくり)

目的

- 観光地「いわき湯本温泉郷」として、安全で、かつ魅力を感じる道路空間をつくることで、住民にとって暮らしやすく、観光客にとっても魅力的な温泉街を目指す。

場所 (候補地)

- 滞留拠点を中心とした、周辺の県道及び市道部

方針①③：主要地方道いわき石川、常磐勿来、市道三函・吹谷
 方針①：市道三函6号、三函8号、吹谷2号

など

効果

- 回遊性の向上
- 観光客の増加
- 安全性の向上
- 地域活力の向上

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

(景観整備による温泉街の回遊性向上イメージ)

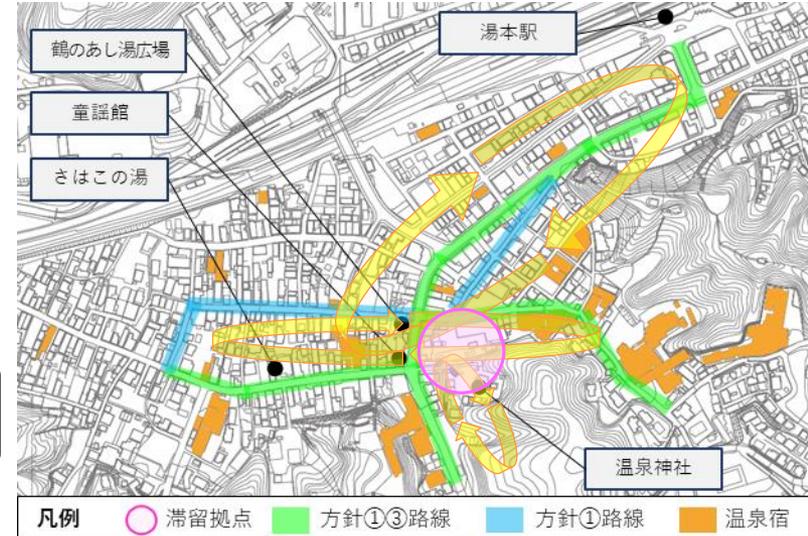
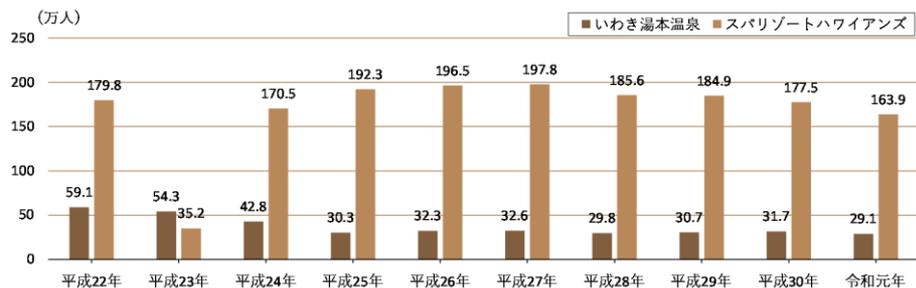


図 道路景観整備の候補エリア



グラフ 安心な歩行空間の印象 (令和2年度住民アンケート結果)



グラフ 常磐地区の主な施設の観光入込客数の推移



写真 三函地区の沿道風景

方針5-①、③（①道路景観の整備 ③安全な歩行者空間づくり）

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

・ 取組みのイメージ

- 温泉街として、情緒ある雰囲気となるよう、路面を石畳風舗装に整備
- 電線類の地中化を図り、電柱や電線の無い、美しい道路景観を形成するとともに、歩道の確保により安全な歩行者空間を整備



・ 想定される主体

- 民：沿道景観の形成（※方針5-②参照）
- 県：県道における道路整備
- 市：市道における道路整備



・ 検討のポイント

- 具体的にどこを整備するのが効果的か
- 温泉街に望ましい道路のデザインとは、どのようなものか
- 歩行者空間の確保に向けた、車両通行ルールの検討（市道三函・吹谷線）



方針5-② 夜間景観づくり

● 目的

- 観光地「いわき湯本温泉郷」として、魅力を感じる沿道空間をつくることで、住民にとって暮らしやすく、観光客にとっても魅力的な温泉街を目指す。

● 場所（候補地）

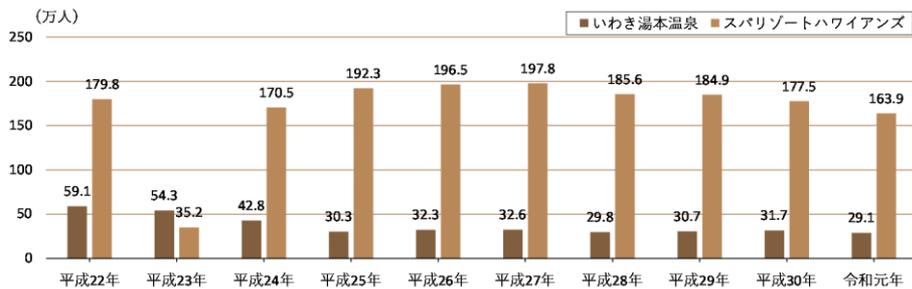
- 滞留拠点を中心とした、周辺の県道及び市道部
 主要地方道いわき石川、常磐勿来、市道三函・吹谷、三函6号、三函8号、吹谷2号 など
 ※方針5-①とセットで実施することを想定

● 効果

- 回遊性の向上 ➤ 観光客の増加
- 安全性の向上 ➤ 温泉街の魅力向上



グラフ 温泉街の印象（令和2年度住民アンケート結果）



グラフ 常磐地区の主な施設の観光入込客数の推移

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)



図 夜間景観整備の候補エリア



写真 三函、吹谷地区の沿道風景



方針5-②夜間景観づくり

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

• 取組みのイメージ

- 官民協働により、沿道景観をつくるためのガイドラインを策定
- ガイドラインに基づき、道路、旅館、店舗、住居などに、行燈等の「灯り」を設置し、魅力ある温泉街を演出



• 想定される主体

- 民：沿道景観づくりの実施
ガイドラインの策定
- 市：ガイドラインの策定
沿道景観づくりへの支援



• 検討のポイント

- 具体的にどこを整備するのが効果的か
- 沿道景観ガイドラインの策定に向けた合意形成



写真 夜間景観のイメージ

方針5-④まち歩き促進

目的

- ▶ 観光地「いわき湯本温泉郷」として、まち歩きを促進する環境を整備し、駅周辺や温泉街への新たな来訪機会の創出を目指す。

場所（候補地）

- ▶ 湯本駅から温泉街までの区域

効果

- ▶ 回遊性の向上
- ▶ 安全性の向上
- ▶ 観光客の増加
- ▶ 温泉街の魅力向上

※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

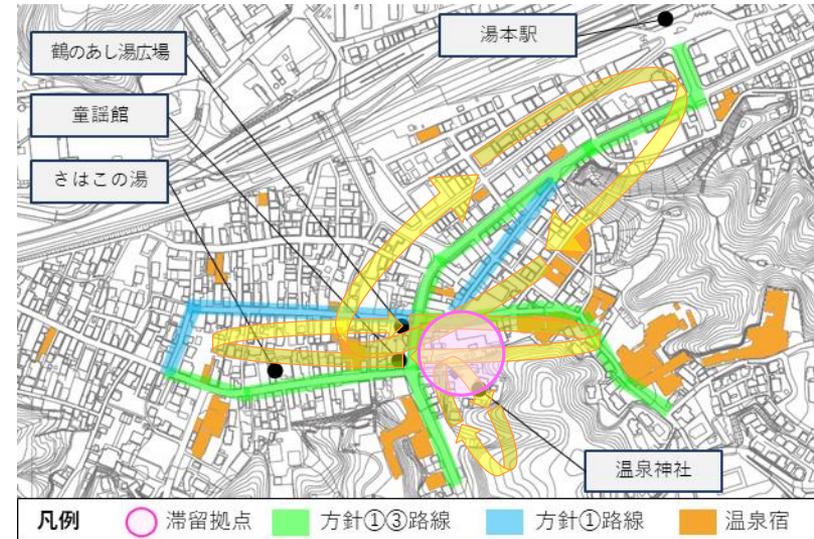
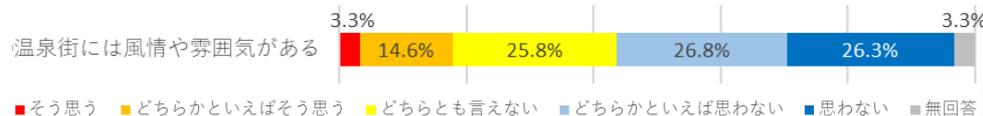


図 湯本駅と温泉街の回遊イメージ



グラフ 温泉街の印象（令和2年度住民アンケート結果）

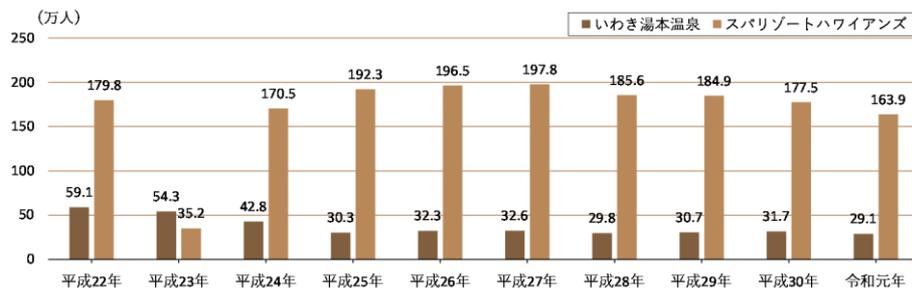


写真 三函谷地区の沿道風景



方針5-④まち歩き促進



※ 本資料はワーキングで意見交換するための「たたき台(イメージ)」です。
 ※ 取扱には注意してください(無断提供・転載禁止)

取組みのイメージ

- 地域資源や魅力ある店舗などが確認できる案内板や誘導標識をエリア内に設置し、歩きやすい環境を整備
- スマートフォンなどの通信機器からも“いわき湯本温泉郷”の情報が取得できるよう、SNS媒体を活用した情報発信

想定される主体

- 民：案内板や標識の設置
SNS等からの情報発信
- 市：案内板や標識の設置

検討のポイント

- 案内板や誘導標識は、どこを設置するのが効果的か
- SNS媒体の情報発信など、広報をどのように行うのが効果的か



写真 案内板等のイメージ



写真 情報発信のイメージ